

# 通信



新年あけましておめでとうございます（盛岡八幡宮・裸祭り）

## 目 次

●表紙写真		1P
●2026 年の年頭にあって	岩手地域総合研究所 理事長 井上 博夫さん	2P
●2025 年度第 2 回連続講座 日本のケア政策はどこへ向かっているのか～過去・現在・未来～		
・「訪問介護の現場から～現状、課題、訪問介護の魅力～」	岩手県ホームヘルパー協議会 会長 千葉則子さん	3P
・「介護保険制度の現状～介護現場の実情と私たちの目指す介護～」	盛岡医療生活協同組合介護事業部 部長 姉帯将宏さん	3P～4P
・「日本のケア政策はどこへ向かっているのか～過去・現在・未来～」	岩手県立大学名誉教授 佐藤嘉夫さん	4P～6P
●2025 年度第 3 回連続講座 地域と学校の存続～岩手の学びの課題と学校の在り方を考える		
・「岩手県立西和賀高校の取り組みについて」	岩手県立西和賀高校 校長 高橋国博さん	6P～8P
・「岩手に夜間中学をつくる会」に携わって	盛岡生活文化研究室 室長 大森不二夫さん	8P～9P
●研究所通信員からの報告（3） 明日の佐比内をみんなで考える	紫波町佐比内在住 高橋 昭博さん	9P～10P

NPO 法人

岩手地域総合研究所

岩手県盛岡市中央通二丁目 8 番 21 号 Mホール

Tel・Fax:019-624-6715

メール:i-chiikisouken@salsa.ocn.ne.jp

## 2026 年の年頭にあたって

## 高市総理が「国民の信を問う」のは何についてか？

岩手地域総合研究所・理事長

井上博夫さん

みなさま新年明けましておめでとうござい  
ます。



新年早々、高市総理によ  
る衆議院解散で慌ただし  
い世情となりました。

2026 年度当初予算  
の審議も行わず「なぜ今、  
解散なのか」、との声に対  
しては次のように述べま  
した。(1) 国の根幹に関わ  
る重要政策を大転換する、(2) 連立政権合意書  
に書かれていることは前回衆議院選挙の公約に  
はなかったため、高市早苗が総理大臣で良いの  
か国民の信を問いたい。

であれば、国民の側は(1)重要政策の大転換、  
(2) 自民・維新連立合意書、について Yes か  
No かを答えなければなりません。

自民・維新連立政権合意書には何が書き込まれ

たか？

合意書前文では、「日本列島を強く豊かにし、  
誇りある『自立する国家』としての歩みを進める  
内政および外交政策を推進せねばならない」と  
して、「戦後 80 年にわたり、国のかたちを作り上  
げる過程で積み残してきた宿題を解決する」と  
謳います。その中核は、「皇室・憲法改正・家族  
制度」と「外交・安全保障」、「インテリジェンス  
政策」(スパイ防止法など)です。なかでも目を  
引くのは、維新の会「21 世紀の国防構想と憲法  
改正」を踏まえた憲法 9 条改正と安保 3 文書の  
前倒し改正によって、VLS 潜水艦を含むスタ  
ンドオフ防衛能力整備や防衛装備移転三原則の  
5 類型撤廃が合意されていることです。

維新の「国防構想」とは、憲法 9 条 2 項を削除  
して国防軍の保持を憲法に明記し、専守防衛か  
ら積極防衛に転換する。集団的自衛権行使を全  
面的に容認して、日米同盟を相互防衛義務の関  
係にし、さらにはオーストラリアやフィリピン  
に同盟を拡大するというものです。これが戦後  
80 年の宿題だと。

## 責任ある積極財政

もう一つ、高市総理が言う「重要政策の大転換」  
とは何でしょう？ いわゆる「責任ある積極財  
政」のことで、「強い経済」を実現する総合経済  
対策(2025 年 11 月 21 日閣議決定)を指すと  
思われます。

経済対策の中心は、①物価高対策、②危機管理  
投資・成長投資、③防衛力強化。②の危機管理投  
資では、AI・半導体、造船、量子、デジタル・  
サイバーセキュリティ、資源・エネルギー安全保  
障など 17 の戦略分野を列挙して、官民で投資額  
目標を設定したり、防衛調達などで需要を創出  
するとしています。しかし、政府が特定分野を指  
定して投資促進や需要創出を図ることが強い経  
済を生むのでしょうか。政府にそんな予知能力  
があるとは思えないし、計画主義的手法が現代  
経済に適合的とは思えません。さらに、③防衛力  
強化も防衛産業の強化として、経済対策の一部  
に位置づけられています。

## 2025 年度補正予算と 26 年度当初予算

これらの結果として高市内閣のもとで編成さ

	2018 年度 補正後	高市政権 予算	増加率
社会保障関係費	32,973	41,723	27%
文教・科学振興費	5,365	8,207	53%
国債費	23,302	31,248	34%
地方交付税交付金	15,361	22,182	44%
防衛関係費	5,191	10,458	101%
公共事業関係費	5,979	8,648	45%
合 計	97,713	140,613	44%

れたのが、25 年度補正  
予算と 26 年度当初予算  
です。コロナ前の 201  
8 年度と比較すると、防  
衛関係費は 2 倍に。国債  
利子率の上昇により、国  
債費も 34% 増の 3 兆円  
に。それでもプライマリ  
ーバランスが黒字にな  
ったのは、インフレによ  
って税収見積が膨らん  
だため、「責任ある積

「極財政」と誇れるものではない。

当研究所では、今年度も「住み続けられる地域」をめざして具体策と一緒に考えます。

注) 高市政権予算は、25 年度補正+26 年度当初予算。

### 岩手地域総合研究所 2025 年度

連続講座「岩手の再生」第2回講座  
「失われた30年を取り戻すために」

日本のケア政策はどこへ向かっているのか  
過去・現在・未来

連続講座第2回講座は11月22日(土)、アイーナで開催され、29名の参加がありました。その概略を報告します。

### 訪問介護の現場から現状、課題、訪問介護の魅力

岩手県ホームヘルパー協議会

会長 千葉則子さん

#### 訪問介護の現状と課題

今の介護の現状と課題というお話させていただきたいと思います。皆さん、介護の現状ということはお分かりだと思いますが、令和6年度の介護報酬改定で訪問介護



系サービスの基本報酬が下げられました。経営がすごく大変だという事業所がいっぱいあります。そして、倒産の件数も増えています。

それに加えて、ヘルパーの求人倍率は多職種と比べて著しく高く、人材の確保は困難になっています。

それとともに、働くヘルパーの高齢化、全国的なところで80を超えたヘルパーさんが70代の方を訪問したりとか、そういうケースも見られています。

それから、労働環境や社会的評価の低さ。未だに「訪問介護って家政婦さん」っていう声も聞かれないわけではないんですよ。家事代行って思っている方もいます。

それから、ICT導入の遅れがあります。今までの記録のところをペーパーじゃなくてエクセルとかの導入を考えてもらえないですかと言っても、なかなか進まないというのが現状です。

#### 訪問介護の魅力

訪問介護って、やっぱり魅力であると思うんです。私たち60代過ぎまで働いているのは、皆さん不安を感じている方と一対一で関わることでできるっていうところが、逆に私は魅力だと思っているんです。そして住み慣れたご自宅で生活したいっていう、その願いを叶える事が私たち在宅の役目なのかな、っていうふうに思

っています。

自立支援の観点からその方ができる部分を増やす、あるいはできるだけ現状維持で過ごしていただけるような支援をするっていうことは、やりがいがあることと思っています。

それから勤務形態、働く時間の調整って多分しやすい時代になっているのかなと思います。50代60代、それこそそういうところで働き方が増えてくればいいのかかって本当に思っています。年齢に関係なく働けるのが、もしかしたらヘルパーさんなのかなっていうふうにも思います。それが多分社会貢献にも繋がっているんだろうなっていうふうに思います。

私たちは、在宅で支えているというよりは、多分、自分たちの年を取った時、どのような支援を受けたいか、そこを考えて支援できればいいのかなって思っています。ありがとうございます。

### 介護保険制度の現状と介護現場の実情と私たちの目指す介護

盛岡医療生活協同組合介護事業部

部長 姉帯将宏さん

本日は、介護現場の実情と私たちの目指す、本来はこういう介護がしたいというような話ができればなと思っております。



### 介護現場の実情

介護職員の有効求人倍率は全産業に比べてもかなり高くなっています。全国の介護職員数が介護保険制度をスタートしてから増え続けておりましたが、2023年度初めて減少に転じています。

厚労省は、介護職員の必要数について2026年度25万人、2040年度には57万人が不足すると言っています。介護職員の人手不足は現在も深刻な課題ですが、今後一層加速するというふうに思われます。

介護報酬は上がらないのですが、人件費は増加する一方です。新卒の応募は現在皆無です。盛岡医療生協でも新卒採用を行ってきましたが、2021年以降は新卒者の応募はなく、採用はできていません。ハローワークや福祉人材センターに求人出していますけれども、中途採用の応募も来ないような状況です。

### 私たちのやりたい(目指す)介護

私たちのやりたい、目指す介護ですが、私たちの人達を支える介護実践を目標に立てています。その取り組みとして、「夢かなえようプロジェクト」というものに取り組んでいます。これは利用者の夢や希望などを伺って、職員が支援す

る内容を考えて、それを実現する、叶える支援を。目的はその人らしさを支えるためです。なぜならば、夢や希望には、利用者のそれまでの人生や趣味趣向が大きく関わってくるからです。

介護のやりがいや魅力ですが、加齢により、また障害等で介護が必要になり、今までやってきたことや、役割がなくなった方に再び役割を持つていただいて、その人らしく生き生きとした姿を見ることができ、それが私たちの支援によってできるということ、あとは一人一人の人生に寄り添い支援する尊い仕事だと思っています。

私たちにとっては人生の先輩である利用者の皆さんに、自分たちの地域の歴史とか風習とか色々なことを教わることも多いです。介護の仕事は、ケアすることで私達自身もたくさんの方とを与えてもらっているなと思っています。介護の仕事をする中で、人として成長できたかなというふうに思っています。

### 日本のケア政策はどこへ向かっているのか 過去・現在・未来

岩手県立大学名誉教授 佐藤嘉夫さん

お二人から介護に対して当面する課題とか、あるいは現場での思いをいろいろ話していただきましたので、そういう現状を踏まえつつ、こう

いう時だからこそ、そもそもみたいな、そういう話を少しさせていただきたいと思っています。

### ケア課題の広がり・深化 (そもそもヒューマンケア・福祉的ケアとは?)



介護という言葉を変えて、もう少しケアという言葉に置き換えて、もう少しケアという視点から物語を見てみましょう。現代的に非常に大きな人間の尊厳を脅かすような行為についているのは、私たちの社会を覆いつくすほど広がっており、この問題が人を苦しめている。暴力、虐待、いじめ、差別、無視、排除、ハラスメント、ヘイトスピーチ等という、こういうことが平気で行われているような社会になってきている、この大きな流れですね。だから、とても対象を問題別に捉えられるようなものではなくて、もう少し社会全体の課題として、ケアということとを少し考えてみると、ケアを必要とする状態の広がりがあることが見えてきます。

### (ケア・生命と生活の再生産に不可欠)

ケアは全ての人達に、誰にでも欠かせないものです。私たちがきちんと生命をつないで、毎日の生活ができていくということにそれは欠かせないものなのです。ケアという言葉の広がりを整理すると、ケアが人間存在の基本に関わって



いるということです。

### ケアの必要性・責任・社会的正義

依存して生きるものたちにはケアが必要である。生活全般に渡ってケアが必要な新生児も、弱って生活にケアが必要な高齢者も、基本的な依存的なニーズを満たしてくれる人がいなければ、成長することや生きることができない。誰かのケアを必要とする、依存というのは、幼少時代など長期に渡るものもあれば、一時的な病気の時のような短期的なものもある。人間の成長や病気、老いといった普遍の事実を考えればどんな文化も依存という要求に逆らっては、世代を継続することができないのです。

だからケアの責任を負うのは誰なのか、実際にケアを行うのは誰なのか、きちんと行われているかどうかを確認するのは誰なのか、これはとても今重要です。この問題は、社会的及び政治的な問題である。それらは社会的責任および政治的意思の問題である。だから、私たちが政治的に、私たちが様々な働きかけをしている国会とかで意思決定すれば、そういうことは変えることができるっていう、変えていいんだっていうそういう問題なんです。社会がこのようなニーズに対するケアをどういうふうに制度化、体系化するかというのは、社会的正義の問題です。

### 今日におけるケアの分断

ケアということを考えると、これは分断を無くするということが解決になりますので、その問題の捉え方はいろいろありますが、今回は分断という視点から見てみましょう。

#### (世代的〈ライフ・サイクル上の〉の分断)

世代的な分断です。ライフサイクル上の分断、子供の時期、現役、高齢期っていうのがあたかも何か別々に存在するかのように考えられているけれども、それは人間の一生の問題です。

#### (関係的分断)

住民が自発的に誰かを支えるとか、自分たちが楽しんでやるとかいうのは分かるけど、公的な、強制力のもとで助け合いをすれば、する人とされる人がどうしても乖離し分断されていく。

#### (階層的分断)

階層的な問題は、生活困窮者と富裕者、労働者と非労働者、生活水準や所得水準などによって分断されていく。

#### (地域的分断)

日本で今起きているのは、地方と地方、人口集中地域と過疎地域の問題。過疎地域ではほとんど福祉事業所などが無くなっている。

### 医療費無料化政策の社会的効果

#### (住民負担の軽減)

低い負担とか、無料にするとどういう効果があるかということは、まず住民負担が減るということに繋がります。

#### (予防的效果)

どんな時でも何の心配もなく病院にかかれるということが、結局予防的な効果につながるということになっています。

#### (ソーシャルコストの通減)

住民負担の低減は、予防活動を含めて、ソーシャルコストとしての医療費通減につながっていきます。

#### (住民意識の変容)

負担なく医療にかかれるというのは、住民意識が変化する平等意識とか権利意識というのが根付くということです。

#### 何故医療費は無料又は低額であるべきか

##### (①医療ニーズの特性)

医療費はなんで低額であるべきかの話ですが、医療ニーズというのは先ほど言ったように後回しにできない。医療の場合は緊急的優先である

こと。病気になる確率はマクロ的に見れば限りなく均等であるから、個人の責任にすると、個人が備えるのというのは適さない。治療費、医療費はいつの時代も高いものだから、個人で備えるのは適さないものです。

### (②) 受益者の観点から

受益者ということを考えてみると、医療ケアとか医療サービスというのは誰かが得をするということではないのです。健康の回復は個人や家族だけではなく、企業や社会の大きな受益である。経済活動や社会が継続していくためには、健康を取り戻す仕組みがあることが大前提である。そのためには国全体としてそれを管理していくべきことです。

### (③) 医療サービスの社会的管理

個人では病気にいつかかるかわかりません。個人では予測できないのですが、社会レベルでは全部統計的に把握されています。毎年、毎年どれだけの人がどんな病気にかかって、どれだけの医療費がかかるかということとは全部把握されている。だから、それに備えて、医療費が下がっていくような取り組みを社会の全体の取り組みとしてやるという、その事が大事なんです。

### 医療サービスの無料化の方向と課題

当面の医療サービスとしては、全ての人に平等に医療サービスをとということ。医療的ケアはケアの中で最も根底的なものであるから、先ほど言った医療費とかで受診できるとかできないとか分断されている階層、世代、地域全てが同意できる課題、同意しやすい課題です。

だから、医療保険の一本化ということをもっと強く主張しなければならない。大事なことは一本化することと確実に受診につなげることだから、保険料とか医療費をどういうふうに社会として組み立てるかということ、その議論は、税金とか社会保険料があるのかもしれないけれど、窓口負担は無くするとか限りなく低くすることが大切です。病気になった時にかかれないっていうのは困る、こういうことがまず基本的な課題としてあると思います。

### 介護制度の改善の方向・介護報酬の引き上げに加えて

当面の改善としては介護報酬の引き上げに加え、大事なことは分断を緩和する改革です。さしあたりは、同じニーズを持ちながら給付やケアサービスを利用する人としらない人の不公平感をどうやって除去するかということなんです。

### (家族・私的ケアの再社会化、公平化)

家族・私的ケアっていうのは先ほど言ったよ



うに、社会化がどんどん進んだけれど、介護保険は自己責任になって、市場サービスを使って自分たちの責任でやりなさいと戻されてしまった。それをもう一回再社会化していくかということで、家族自身が私的なケアとしてやっているものをどう評価するかという問題になります。

私的に行われているようだが社会的な労働だから、家族とか知人間で行われた私的労働の一部にもう一回光を当てて、それを社会的な労働として、再社会化、再評価するっていうことが必要ではないでしょうか。

### (ケアニーズの適正な補充を担保する仕組みの強化)

それからケアニーズの未充足や適正な充足を担保する仕組みの強化です。行政の方もその実態がわかってない。だから実態を把握したうえで制度を改善していくっていう話です。一番の未充足の問題としては、相談利用援助っていうところなんです。例えば、ホームヘルパーにはちゃんとケアマネというよりソーシャルワーカーとしての業務をホームヘルパーの中に組み込んで、それを介護報酬に跳ね返させる。それを仕事と

して認めていく。

社会的な公共的ケアとして、不公平や分断をなくすためには、最終的には介護保険の抜本的改革が必要だと思いますが、当面はこのようなことを進めるべきだということが一応の提案です。

(文責：事務局)

### 岩手地域総合研究所 2025年度

#### 連続講座「岩手の再生」第3回講座

「失われた30年を取り戻すために」

「地域と学校の存続」岩手の学びの課題と学校の在り方を考える」

12月6日(土)、アイーナ団体活動室2で、

人の参加で開催されました。

概要をお知らせします。

#### 岩手県立西和賀高校の取り組みについて

岩手県立西和賀高校 校長 高橋国博さん

#### 1. 県内の高校に勤務して

(胆沢高校)

私は旧和賀郡湯田町、今西和賀高校があるとここで生まれました。1992年(平成4年)に岩手県立高校の教員として採用されました。

初任地は胆沢高校です。普通科なのですが、普通コースが1クラス。それから観光コースと情



報コースが合わさって1クラス、2つのクラスでした。もうこの時すでに、普通科で特色のある学びを提供しようという試みが始まっていたのです。観光が大好きで、今のいわゆる鉄男というか、そういう人なんかもいて楽しかったよう。今は胆沢高校は廃校になって

#### (福岡高校定時制)

その後、福岡高校の定時制に行きました。夜間の高校です。授業が夕方からです。4年間で卒業するコースでした。昼間は社会人として仕事をしている人、アルバイトをしている人、アルバイトもしないで家にいるという人も中にはいました。定時制は本当にいろんな人がいて、いろんなチャンスがあつて、実はもうチャンスがなくなつたと思っている人にもチャンスを与えることができるすごくいい制度だなというふうに思いました。中身の濃い4年間でした。

#### (宮古高校)

その後は宮古高校に行つて、ここで初めて大学進学を目指す生徒たちと、私も授業の勉強をやり直して一緒に学びました。部活動も活発で

した。宮古市を何とかしようとか、将来リーダーになろうというふうな生徒が多かったです。

#### (盛岡四高)

そのあと盛岡四高に行きました。いろんな事をやりたがるのです。私は、好き勝手なことばかりやっているなと最初勘違いして、もっと勉強しろと言っていたのですが、人にやれと言われてやる人たちが少ない。その時期が来れば勝手にやり始めるんです。すごくいろんな才能を持った人がいた。そこにいろんなことを押しつけるのはよくないなというふうに思った6年間でした。

#### (一関一高)

その後、一関一高に行きまして、普通科のほかに理数科というのがあった学校でした。私は理科の教員です。で理数科の生徒にいろいろ接することがあり、いろんな生徒がいるなと思いました。8年間もいてしまいました。

#### (総合教育センター)

その後、総合教育センターというところで、先生たちが研修するところに行きました。小学校、中学校、特別支援学校の先生たちと出会って、とても楽しかったです。学校じゃなくて半分役所みたいなところで、役所って厳しいんだとい

うのもわかりました。その後、管理職になってから役に立ったなというふうに思います。

### (福岡高校の副校長)

福岡高校全日制の副校長で 1 年間行きました。授業はしないので、授業をしない先生だというふうに認識されると、彼らは意外とくつついてくるんです。彼らは評価される先生にはななく壁を作る。評価する人と、しない人で違うのかなということがわかりました。役所で鍛えたノウハウで、校長と教員の人たちとのパイプ役とか、PTA とか同窓会とか、それこそ大人たちとのつながりの勉強もさせてもらいました。

### (伊保内高校の校長)

その後、伊保内高校の校長として赴任するわけですが入学者が少ないのです。福岡高校は二戸市で、その隣が伊保内高校のある九戸村です。福岡高校の副校長の時には、九戸村にある九戸中学校からどれだけ生徒を引っ張ってくるかというのがテーマでした。40 人ぐらいしかないのに 10 何人来てもらっていましたが、伊保内高校の校長で行って立場が 180 度変わってしまいました。

九戸村に 1 校しかない高校ですので、村からの支援がもう絶大でした。総合的な探求の時間で「伊高むらおこし会社」というのをつくつてい

ろいろ活動しました。2 年で終わって、今年の 4 月から西和賀高校に来ました。

### (西和賀高校の校長)

生徒募集が大変なので魅力化・特色化を図るとともに、いろんな高校生がいて、いろんな学びがありますから、その学びをプロデュースするというのが今の私の使命なのかなと思っています。例えば宮古高校は大学受験をする人がほとんどだったので「勉強しよう、テストで点数取ろう。」極端に言えば、そういうふうなことで、ストレート一本でいいんですね。でも、そうじゃない、やっぱり変化球。私たちに変化球の球種がたくさんあるといろんな生徒にマツチするのかなと。そして、新しい球種も覚えていけばいいのかなというふうなことで日々勉強させてもらっております。

## 2. 西和賀町について

### (生命尊重行政の歴史)

2005 年に湯田町と沢内村が合併して西和賀町になりました。西和賀町は豪雪地帯です。人口のピークは 1960 年で 1 万 9000 人。今年の 9 月末現在は 4,518 人。西和賀町の高齢化率が 55.2%。岩手県で一番高齢化率が高い。日本の過疎地の最先端という中でも、今でも町に根付いていると思うのは、生命尊重行政です。

旧沢内村は 1962 年に全国で初めて乳児の死亡率 0% になったんです。その前に子どもと老人の医療費をタダにするんです。沢内村には沢内病院という村立の病院があつて、医療費をタダにするのは法律が許さないからダメだと国から言われたのですが、その時の村長さんは、「いや、憲法は許しますよ。法律違反かもしれないけれども、憲法違反ではないから最高裁まで行ったら勝つぞ。」と言って無理やりやったという、そのくらい命を大切にしたんだそうです。そういう伝統が今でも脈々と続いております。

### (西和賀町の第 3 次総合計画)

西和賀町は第 3 次総合計画というのを今計画しております。道の駅を作って関係人口を増やそう。2 番目に西和賀高校を存続させよう。3 番目に西和賀町の特産品を売ろうという「ユキノチカラプロジェクト」をパワーアップさせる。この 3 本柱で西和賀町を存続させるための活動しようということになっております。

ある幹部は、「町が生き残るためには、西和賀高校の存続、JR 北上線の存続が鍵だ」と言っているんです。JR 北上線が存続するためには西和賀高校が存続しないとダメだ。北上線を使っている生徒が約 70 人。一番利用しているのは西和賀高校生なのです。もしも高校生がいなくなると大きな痛手だ。北上線の存続と西和賀高



校の存続が鍵だと発破をかけられているところ  
です。

### 3. 岩手県の公立高校で何がおきているか (生徒数の減少)

1992年(平成4年)には、岩手県の公立高  
校には53, 496人が在籍しておりました。  
今年の2025年は21, 609人です。半分  
以下になっているのです。1992年の時には  
募集定員1クラス、つまり1学年1学級、3学年  
合わせても3学級の学校はゼロだったのですが、  
2025年は10校です。財政的に考えればなく  
した方がいいのかもしれませんが、もちろんそ  
うすると学びの保障というのではないので、どう  
していくかということが悩みの種だと思います。

#### (魅力化、特色化)

私たち教員も、どうなるのかなと見ているだ  
けじゃなくて、市町村と協力しながら魅力化・特  
色化を進めていって入学生をいっぱい取り込も  
うとしているわけです。県外から入学生を募集  
する岩手留学。あるいは広い岩手県の県土です  
から遠隔授業。他に通級指導、単位制導入、新学  
科設置など各高校がいろいろな魅力化・特色化  
に取り組んでいます。

#### (普通科の半数が3学級以下)

岩手県の教育委員会では、1つの学年に3学  
級以下の学校を小規模校と言っているのですが、  
ほとんど小規模校です。岩手県で普通科を設  
置する高校が37校あるのですが、その半数以上が  
3学級以下です。岩手県のルールとしては、1学  
級、つまり40人募集のところで入学者20人以  
下で2年連続すると募集停止の対象になります。  
私は伊保内高校で生徒募集にとっても苦労し  
ました。また西和賀高校に来て、西和賀高校は80  
人募集なんですけれども、40人以下にならない  
ようにということで、またその苦しみをこれか  
ら私は背負っていくわけなのですが頑張ってお  
ります。

#### (岩手留学)

岩手留学で県外からの生徒を募集します。3  
つのタイプがあつて、種市高校の水土木とか  
水沢農業の馬の勉強をするところは、本当に学  
びの特色ですね。地域ふるさと振興高というの  
は、普通に県内の生徒と一緒に来てくださとい  
うのです。留学実施校というのは、西和賀高校  
はこれなのですが、西和賀町が住む環境を提供  
してやるという学校です。今年の4月のデー  
タを見ると、沼宮内高校は8人募集して4人入  
りました。葛巻高校は15人募集して10人。平舘高  
校はゼロでした。西和賀高校は8人募集して5  
人です。

### 4. 西和賀高校について

西和賀高校は1948年に黒沢尻第一高校、  
今の黒沢尻北の川尻分校。川尻分校沢内分室と  
いうことで生まれました。1972年に3学級  
で独立、1981年に2学級になりました。19  
95年に特色化ということで、福祉情報コース  
というのを作った。2018年に1学級になっ  
て、2020年に福祉情報コースを廃止して、2  
025年、今年4月の入学生から2学級にな  
りました。

出身中学校を見ると、北上市の全部の中学校  
から来ております。花巻からも来ておりますし、  
横手は学区内隣接学区ということで来ています。  
東京とか他県からも来ております。

### 5. 西和賀高校の取り組み

#### (グラデュエーションポリシー)

今年も国公立大学に合格した生徒もおります  
し、出口も本人と先生たちが頑張つてしつかり  
しているつもりです。グラデュエーションポリ  
シーというのは、卒業していくときに、どうい  
う姿になってほしいかというふうなものです。主  
体性、協働性、探求力というものを取り上げてお  
ります。

#### (カリキュラムポリシー)

それから、カリキュラムポリシーというのは、どのように学ぶかです。教科の基礎の徹底、100年の生き方の模索、西和賀の魅力と課題の探求という3本柱です。沢内村の命を大切にするというふうなことを、ここでも勉強しております。

習熟度別授業は3つのクラスに分けてやっております。生徒たちは自分のレベルに合った授業が受けられるのいいと言っています。ただし、先生方の負担は大変なものがありません。先生方の頑張りによって支えられています。

それから授業以外は西和賀町の支援で公営塾もやっておりますし、模擬試験とか各種検定を自己負担1000円で受けられます。海外派遣にも5人派遣してもらえます。それから学生寮も3つ運営してもらっています。地域貢献としてスノーバスターズとか、リンドウの収穫とかもやっております。部活動はローイング部が特色です。錦秋湖でやっているボートです。公式野球は、この間の夏に1回勝って、2回戦で一関高校に負けましたけれども、面白い試合をしていました。

西和賀高校に来る人は、いろんな人がいます。上級学校に行きたいという人もいれば、就職したいという人もいれば、そこそ中学校の時はあんまり中学校に行けなかったという人もいます。いろんな人がいますが、みんな生き生きと

高校生活を楽しんでいると思います。

## 「岩手に夜間中学をつくる会」に携わって 盛岡生活文化研究室 室長 大森不二夫さん

### 1 生活文化研究室の活動と夜間中学との関り

私は、地元で30年ほど新聞記者をやっていました。その間、PTA活動にちよつと携わったくらいで特に教育に関わったことはありませんでした。



定年後、一市民としていろんな問題を足元から見つめようかなと思つて生活文化研究室を立ち上げました。そこで岩手大学の地域課題問

題研究プロジェクトに応募して、学生、留学生と一緒にプロジェクトチームを組んで、1つは岩手県の中での地域共生、外国人とどう共生するかという問題。もう1つは外国人に対する日本語教育ということで2年間活動しました。そのときの先生が、移民の問題とか、多文化・異文化の問題を取り上げていて、その先生のところに、東京にある「全国の夜間中学と教育を考える会」の事務局から、岩手でぜひ夜間中学について普及啓蒙したい、力を貸してくれという声掛けがあったのです。その時に私にも先生から声をか

けられて、そこで初めて夜間中学に出会いました。「岩手に夜間中学をつくる会(仮称)」というところで、当時の学生さんが中心になって2022年に始まりました。

### 2. 夜間中学とは

夜間中学というのは、戦後の1947年ころに大阪とか東京で、学校の先生方が戦争孤児たちに手弁当で始めたのです。そこからスタートして紆余曲折を経て2016年に教育機会確保法が出来て、文科省が全国の都道府県、政令指定都市にせめて1校、夜間中学をつくるようにというところで、現在32都道府県に62校が開設されています。



対象者は小学校だけで終わったり、何らかの形で行けなかったり、行つたけれども終了までいかなかった人たちです。2020年に実施された国勢調査では岩手県に21,000人いるんです。その他に在留外国人の方々。岩手県に5年前は7,000人だったのですが、今11,000人ぐらいになります。さらに、いわゆる不登校の方が増えています。

### 3. 夜間中学ドキュメンタリー「こんばんはⅡ」の上映会

先ほど言った「岩手に夜間中学をつくる会(仮称)」の活動で、夜間中学ドキュメンタリー「こんばんはⅡ」の上映会を行いました。100人ぐらい集まりました。この映画は、外国人の人がいて、高齢者がいて、不登校の方がいて、この三者三様の生き方・暮らし方がドキュメンタリーとして映し出されていました。その2年後の2024年に北上の方でも上映会をやつて60人くらい参加しました。市議会議員の方、国会議員の方も見にきましたが、皆さん必要性を感じながら、その後なかなか進んでいないというのが実態です。

東北の方では、仙台、福島があります。来年以降に決まっているのは青森です。山形も動いています。岩手、秋田はどうするのかという状況です。そうした中で岩手県教育委員会が、夜間中学が必要なのかどうかということで2023年12月から翌年の1月まで調査をしました。各市町村の窓口と国際交流協会の窓口を通して、インターネットでもアンケートしました。それに對して260人位から回答があつて、51人が夜間中学が必要という回答でした。岩手でも、どの地域にするか、先生の問題、予算の問題等多々あると思いますが、あちこちの先進例を参考に検討していく必要があります。

### 4. 「新渡戸の夢く学ぶことは生きる証」の上映会

いわゆる夜間中学はどこから始まったかという、130年前に北海道で「遠友夜学校」というのを、すべて私費を投じて新渡戸稲造がつくりました。当時、男尊女卑の時代に、新渡戸は一切無料で、年齢も性別も一切聞きません。学生たちが手弁当で先生をやり、約50年続いて戦後で終わりましたが、そこで1,100人が卒業しました。その人たちの子孫が思い出を語ったことでドキュメンタリーが作られています。2025年6月、盛岡の上映会には約1,000人参加しました。

現在、学びの場として通信制やフリースクールがありますが、そういうところは決して安くはありません。行ける人は限られています。公立の夜間中学は無償です。教科書もくれます。そういう教育の受け皿、オプションとしてやる必要があると思っています。

(文責…事務局)

## 研究所地方通信員からの報告(3)

通信員 いわて地域総研会員

高橋 昭博さん (紫波町佐比内在住)

### 明日の佐比内をみんなで考える

前回は、全住民アンケートの前身や分析について報告しましたが、今回はアンケートを基に取り組んでいる主な活動を報告したいと思います。

なお、このアンケートは、地元の比較的若者の男女10名ほどによる検討会を重ねると同時に、地区民にアンケートを実施する理由・必要性を理解してもらうための住民説明会を行って、アンケート調査を実施しました。同時進行で、佐比内の未来が見える「理念」を作ることを目的とした「理念設定ワークショップ」を行い、地区内外の老若男女が集まって話し合いを重ねました。アンケート検討会のメンバーを「佐比内の未来予想図をみんなで考える会」のリーダーと位置づけ、ワークショップとアンケートの結果から検討を重ね、地域の①理想、②現状、③未来像が見えてきました。

未来へつなぎたい佐比内の魅力として、☆佐比内の誇れる資源は、①金山太鼓、②ぶどう・野菜、③産直、④豊かな自然、⑤隠れキリシタン・

金山、があげられました。☆もつとアピールしたいものとして、①金山太鼓、②特産物、③かかしまつり、がアンケートの結果でした。これらを基に、R5 年の 3 月に 2 回にわたりアンケート報告会を開催し、全体理念を「佐比内の自然や環境を魅力的に磨き、共有し発信すること、佐比内で暮らしたくなる人が増えるといいな」とまとめ上げ、この実現に向けて活動に取り組んでいます。

令和 5 年度からの地域づくり打合せメモを見ると、地域づくりは新公民館の活用(建設)(※現在の佐比内公民館は、土砂崩れの避難区域に入っていることから移転対象物件となり、この間移転検討委員会が設置されて旧佐比内小学校の校庭内に移転されることとなっているが、移転時期は現時点で不明)と関係してくるのではない。これまでのワークショップやアンケートを踏まえ、どこに注力するか整理した方がよいのでは。もつと先進地研修をすべきではないか。などの意見が出されたことや、公民館建設やコミュニティセンターに対する認識がバラバラなのではないか。コミュニティセンターと公民館の違いを共有した方がよいかも知れない。目指すコミュニティとコミュニティセンターのイメージを共有できた方がよい。などの気付きが出され、令和 5 年度は、公民館とコミセンの違い、そして地域を支える地域運営組織の勉強会に取

り組むと同時に、視察研修会も行いました。言わずもがなではありませんが、公民館は教育委員会部局でコミュニティセンターは首長部局です。

紫波町だとコミュニティセンター化するまでに決めなければならないこととして、

・公民館業務のどこまでを町民運営にするのか？

・運営する組織は？地域運営組織？

・全地区一律に進めるのか？

・担当課は？

・コミュニティセンター条例等の制定

などが考えられます。町内に 9 地区公民館 8 がある内、令和 7 年度までに 5 つの地区公民館に地域づくり支援員が配置されていますが、まだまだ町民との議論は深まっています。

さて、令和 5 年 11 月に佐比内公民館に於いて「佐比内地域づくり勉強会」を開催しました。講師に新潟県村上市の NPO 法人まちづくり学校チーフコーディネーター大滝聡さんをお招きし、「良い地域とは？動いている地域の特徴・地域づくりの視点から」と題して、大滝さんが実際に取り組んできた地域づくりの中から見えたことなどをお聞きしました。参加者は全体で 25 名ではありましたが、大滝さんはアンケート実施に向けた勉強会の際に、リモートでご教授した方なので、佐比内についていくらか分かってい

ることから、こちらが知りたいことを先回りして説明して頂いたのが本当に分かりやすかったです。さらに勉強会終了後、地区内で唯一飲み会ができるレストランぶどうの樹で、若者たちを先頭に 20 名ほどで大滝先生を囲んで行った交流会も大いに盛り上がり、「やはり地域づくりにがんばっている先進地に行つて、見たりきいたりするべきだ」などと、来る視察研修会への期待も込めて氣勢をあげました。と言う訳で、令和 5 年 12 月に福島県西会津町へ、令和 6 年 3 月には大滝さんの本拠地新潟県村上市の 2 カ所を視察研修して参りました。

この視察で見たこと、聞いたこと、学んだことは次回に紹介いたします。乞うご期待！

### 事務局からお知らせ

いわて地域総合研究所では、昨年 8 月から自治体問題研究所「住民と自治」誌の読書会を zoom で開催しています。

1 月は、28 日 17:30~18:30 に特集Ⅱの「顕在化した社会保障の危機と自治体の課題—医療・介護分野を中心に」を取り上げます。

参加希望者は、下記 URL からアクセスしてください。

<https://us02web.zoom.us/j/85359664979?pwd=eGht10FY0JrWHmz5WnFmVQV6T97CEB.1>

ミーティング ID: 853 5966 4979

パスコード: 425405